

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100491		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	グループホーム保戸野		
所在地	秋田市保戸野中町6－15		
自己評価作成日	令和6年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/05/index.php?action_kouhyu

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内
訪問調査日	令和6年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の病院、歯科医院、老人保健施設、配食サービス等、医療、福祉サービスの連携がとられ、特に医療面でのバックアップは万全です。
 風と光を取り入れた快適な環境の中で、入居者の皆様は穏やかに生活しています。
 入居者の皆様の仲も良く、話声や歌声、笑い声の絶えない温かな雰囲気の中で生活しています。秋田市グループホーム連絡会の交流や勉強会等を通して、更に居心地のよい場を提供できるようスタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地にあり、近くには千秋公園など、自然を意識する環境にある。
 関連施設に病院があり精神科、内科、整形外科、歯科、リハビリテーション科などの医療面の支援が充実している。看取りはしていないが重度化の支援として老健施設、特別養護老人ホームなどがある。また、母体の医療相談室に施設入居等の相談員(精神保健福祉士)が配置されている。施設の1階はパン工場、2階と3階がグループホームとなっていて、緊急時は協力体制が万全である。施設内は廊下に手すりがなく、壁伝いに歩行できる滑らない素材となっている。また、各居室は対面になっていない構造で、利用者のプライバシーに配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営方針と共に理念を作り、玄関に掲示し、出勤時に確認し常に念頭に置くよう意識している。個々人の理念も構築することで理念に基づくケアの実践を目指している。	事業所の入口に理念を掲示し、毎日出勤時、常に目に触れることができる。職員一人ひとりが理念を理解し、利用者が笑顔で日々を過ごせるようなケアの実践に繋げている。	事業所内に、理念が掲示されていますが、ホームページやパンフレットなどで事業所外にも示すことで、事業所理解がさらに深まると思われます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が5類に変わってから少しずつ町内のイベントやお祭りに参加させてもらっている。5類に変更されたとはいえ、感染症対策は継続しているため、コロナ禍以前のような交流はまだ出ていない。	町内会長が運営推進会議に出席しており、コミセン祭りや近隣のイベントの紹介があり参加している。まだ日常的な交流とはなっていないが、交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	高齢者の健康管理や認知症、介護施設の情報等を運営推進会議の参加者を通じて発信している。 また見学に訪れた方の相談に乗ることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、2か月に1回開催している。オープンな雰囲気の中で日々のケアや事業について等報告している。構成員の方々から、各視点からの意見をいただいたり、地域のイベント情報などを聞き、サービスの向上に努めている。	定期的に運営推進会議を開催し、議題に沿って事業所から報告後、出席者から提案や助言要望、情報提供がある。特に、災害などの喫緊の課題について活発な意見交換が行われケアに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員には、毎回運営推進会議に参加してもらい、意見交換やアドバイスをもらっている。また空き情報の問い合わせや見学希望の紹介などをいただいている。	運営推進会議に地域包括支援センターと民生委員が毎回出席しており、情報提供や助言がある。生活保護の担当者に生活状況の報告や法人内にグループホーム担当者(PSW)が配置されていて、必要に応じて連携している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の身体拘束、高齢者虐待に関する研修に参加している。見やすい位置にマニュアルを置き、いつでも確認できるようにしている。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1度、虐待防止検討委員会を半年に1度開催し、身体拘束や虐待をしていないかチェックする体制を整えている。	身体拘束及び虐待に関する研修に参加し、毎月のミーティングで研修の内容を周知している。半年毎に虐待のチェックリストを記入し、虐待が行われていないか確認している。他、法人の安全委員会やケアパートナーの研修にも参加し、ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を企画し、ミーティング時に職員にフィードバックしている。必要に応じ、法人の担当相談員と共に支援に結び付けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と相談員と共に説明を行い、理解納得いただけるよう努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、公的窓口の掲示を行っている。また、ご家族様へ定期的にアンケートをとったり、電話で様子を報告する度に要望はないか確認し、サービスの向上につなげている。	事業所の玄関に意見箱を設置し、毎月15日に法人全体で回収する仕組みとなっている。最近は居室での面会ができるようになり、家族からの要望でおやつを食べれるよう改善された事例もある。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	年間事業計画の作成時やミーティング時等には全職員と話し合いの場を設け、意見を聞き、業務改善や行事等柔軟に取り入れている。	朝夕の申し送りや毎月のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会がある。管理者は、職員の提案や意見の把握に努め、入浴の曜日を固定にすることで、職員負担の業務改善に反映させている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市グループホーム連絡会の勉強会や意見交換会、交流会、合同作品展に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階から信頼関係を築けるよう努めている。1対1で、顔を見ながら話しやすい雰囲気を作り、時間をかけ十分に話を聞き、安心感につながる対応を心掛けている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの出来事等、ご家族が話す事をしっかりと傾聴し、受容する事で、早期の段階から信頼関係を築けるよう心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、できる事できない事、好きな事嫌いな事を見極め、野菜の下拵え、盛り付け、洗濯干し、洗濯物たたみ、掃除等、本人の負担にならない家事を共に会話しながら行ってもらっている。終了時には必ず感謝の言葉を伝えている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはホーム内での楽しいエピソードを伝えたり、笑顔の写真や手づくりした手工作品を見ていただいている。またできる範囲での付き添いを行ってもらい、共に入居者の支援をしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族、知人の面会や電話、外出等を支援している。家族同伴で馴染みの美容室を利用する入居者もいる。	現在面会は居室でできる様になっている。馴染みの人や地域の人が訪ねて来る事は少ないが、家族や知人の面会、電話での近況報告や手紙のやり取りができる様支援している。家族の協力で、馴染みの美容室に行く利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常に見守りをする中で、入居者同士が良好な関係を築けるよう配慮している。席の配慮をしたり、共に会話や家事作業ができるよう仲介している。助け合ったり、声を掛け合ったり、全員がささやかでも和やかな関係を築いている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を移った後も時々顔を出して様子をみさせてもらっている。退居後、家族の方が様子を話してくれたこともある。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングで本人の希望を聞いている。また生活歴やご家族からの情報を通し、日常の会話の中からも希望を引き出せるよう努めている。職員間で話し合いながら本人の立場に立ち、支援に活かす努力をしている。	本人の思いや意向の把握として、担当職員が毎月モニタリングを行っている。困難な場合は、毎日の生活の中で、特に10時と3時にホールに集まって雑談している機会に、表情や行動を見逃さない様、普段の会話から汲み取るよう務めている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、また担当ケアマネや前施設の職員等から生活歴を聞き、ケースファイルにまとめている。それまでの生活スタイルを可能な限り継続し、自分らしさが引き出せるよう情報を共有している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	月1回モニタリングを行いご本人、ご家族の意向を確認している。また月1回カンファレンスを行ない職員全員で情報を共有し、話し合うことで介護計画に活かしている。見直しは3か月に1回行っている。	毎月のモニタリングで、本人の要望やニーズの把握に努め、家族の意向も確認している。その後、職員全員でカンファレンスを行い、現状に即した個別介護計画の作成につなげている。3か月毎に見直しを行っている。	介護計画書は、本人、家族からモニタリングし、その後職員間でカンファレンスを行い作成されていますが、介護サービス計画書の3表または24時間シートを活用し、利用者それぞれに合った個別ケアの充実に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日の行動記録、フォーカスチャータリングを記録している。それを基に朝夕の申し送りやミニカンファレンスを行うことで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コミセン祭り等の近所で行われているイベントにお誘いいただき参加している。近所の眼科や歯科の受診、商店で買い物をするこもあった。コロナ禍後少しずつ交流する機会を増やしている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関等の説明を行っている。希望を伺い、病状に応じて他の医療機関も自由に選択してもらっている。受診の際には他部署の送迎車輛の協力を得ている。定期的にかかりつけの歯科を受診している入居者もいる。	入居時に、協力医療機関の説明を行っているが、希望する場合は、他の医療機関の受診に送迎する支援を行っている。訪問歯科の往診もあるが、かかりつけの歯科医を受診している利用者もいる。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常よりささいな変化も見逃さないよう状態観察をおこなっている。看護師に状態報告を行い、特変時には相談し、その上で受診している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当の看護師や相談員に、日頃から状態報告をしている。また定期的に情報交換や相談のための会合を設けている。状態に応じ、主治医、家族、相談員と共に情報交換をしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、主治医や相談員を交え、終末期ケアについての話し合いがもたれている。変化に対しては、主治医、看護師、相談員等と連携しつつ対応している。	重度化や終末期のあり方について、本人・家族の意向を尊重しながら、丁寧に説明し方向性を確認している。看取りは行っていないが、母体が医療法人であり、病院と連携し、状態に応じて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の安全管理研修には全員参加している。緊急連絡網と緊急時マニュアルを作成し、いつでも見て確認できる場所に置いている。また迅速に対応できるようシュミレーションを行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て、定期的に避難訓練を実施している。マニュアルや連絡網を作成し、いつでも確認できるようにしている。緊急時には3階の職員や階下のパン工房に協力要請できる。	BCPを作成し、定期的に避難訓練を実施している。また、運営推進会議で、町内の協力体制について話し合い連携できている。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から個々の状況に応じ、言葉の使い方や1対1での対応等工夫して行っている。尊厳を尊重した対応に努めている。個人情報鍵のかかる棚に保管し取り扱いに配慮している。	事業所の内部は、曲線の床や壁の配置、対面になっていない居室によりプライバシーが確保されるデザインになっている。一人ひとりを尊重した丁寧な言葉掛けや対応をしている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	法人内の床屋の利用の援助をしたり、希望によりスタッフが髪染めを行っている。個々の状況に応じて、本人の希望する洋服を、季節に合わせ着用できるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や郷土食等も取り入れ、野菜切りや下ごしらえ、配膳、後片付け等個々に応じて共に行っている。感染症対策のため職員は共に食事はしていないが、食事の感想を聞いたり食が進まない方への声掛けはしている。	昼食は配食サービスを利用しているが、朝食と夕食は、主に職員が調理し、配膳や後片付けなど利用者のADL状況に合わせできることを実践している。本人の箸や茶碗などを使用し食事を楽しむことができる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を基に調理し、個々の状態にあわせ、量や形態、食器等に配慮して食事を提供している。食事量や水分量を記録し把握している。好みの飲み物を選択してもらうなど水分量が確保できるよう工夫している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアが行えるよう支援し、不十分なところがあれば介助することで清潔保持できるよう支援している。歯間ブラシ、デンタルフロス等状態に応じて使用している。夕食後は義歯を預かり、洗浄剤を使用している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じて自尊心に配慮しつつ声掛けや誘導を行っている。失敗した時でも、プライバシーに配慮し、さりげない対応をしている。	カーデックスに排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声掛けや誘導でトイレ誘導し排泄の自立支援を行っている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動を行い、便秘の予防に日々努めている。排便習慣を把握し、確実に排便されているか記録している。医師と相談し、状況に応じて下剤を使用することもある。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々人の希望を取り入れ、時間を問わず入浴できるよう努めている。健康状態を確認し、週に2～3回入浴してもらっている。拒否がみられても、声掛けの工夫や時間や職員を変える等で対応している。清拭や足浴等も状況に応じて行っている。	一人ひとりの希望を取り入れ、週2回以上入浴できる様支援している。状況に応じ、夕食後や寝る前にも入浴できる様支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを整え、運動量を確保することで適度な疲労感をもってもらえるよう支援している。また、状態に応じて、自室でゆっくり休んでいただけるよう配慮している。室温調整や寝具の配慮など室内環境を整えている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記録し、目的や用法について理解している。症状の変化がないか観察し、変化を見逃さないよう努めている。看護師と服薬確認を行い、受診時のアドバイスを受けている。内服時も個々に応じた援助をしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、経験、得意とすること、できる事等を把握しながら、生活の色々な場面で能力を発揮できるよう支援している。自信と生きがいを感じられるよう心掛けている。また、毎日体操や歌、手工芸作りの時間を作っている。季節の行事やレクリエーションも積極的に取り入れている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	懐かしい店や馴染みの場所等、希望を伺いながら、月平均2回買い物や、ドライブ等の外出レクリエーションを行っている。また家族の協力を得て、積極的に外出支援を行っている。	買い物やドライブ等の外出レクリエーションを行っている。買い物支援では、利用者の有する力や希望に応じて、自分でお金を払えるよう支援している。また、家族の協力で法事などの外出をしている利用者もいる。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーションでの買い物時には、一人一人の力に応じてお金を使用できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や室温調整、湿度調整、清掃などをこまめに行い、快適な環境を保つよう日々心掛けています。季節にあった装飾品で、季節感を感じながら心地よく過ごせる工夫をしています。職員は自身がたてる音や声に配慮している。	共有の空間は、清潔に保たれ快適な環境となっている。壁面に、利用者の作品や季節感のある装飾と絵画が飾られ、心地よく過ごせるよう配慮されている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子等をリビングや外が見えるフロアに置き、それぞれが気分に応じて過ごせるよう配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、思い出の品等本人の馴染みの物を置くよう配慮している。テレビを置き自由に見ている方もいる。また自作の塗り絵や家族や飼っていた猫の写真等を居室に貼っている方もいる。心地よく過ごせる居室にするよう配慮している。	居室はタンスやテレビ、椅子など本人の馴染みの物が持ち込まれ、落ち着いて過ごせる環境となっている。個々の利用者にとって居心地の良い場所、安心感のある場所になるよう工夫されている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、安全に身体機能を活かせる環境となっている。トイレの場所には目印をつけている。必要に応じ、居室前に表札をつけている。		